

平成30年度 第1回学校運営協議会 記録 (概要)

- 1 開催日時 : 平成30年7月5日(木) 15時30分～17時00分
- 2 開催場所 : 池田高等学校 校長室
- 3 運営協議会メンバー:

①運営協議会委員 (委嘱委員)

(会長)	桑畑 進	(学識経験者) 大阪大学教授	Ⓐ
(副会長)	萬川 幹夫	(学校の運営に資する活動を行う者) 同窓会会長	
	阪 晃一	(地域住民) 池田市立石橋中学校長	
	松浦 周介	(地域住民) 旭丘自治会	
	鍋島 浩	(学校の運営に資する活動を行う者) 後援会会長	
	高橋 修	(保護者) 平成30年度PTA会長	

②事務局員 (校内出席者)

校長	若林 智子	事務長	板谷 卓
教頭 (事務局長)	伊藤 倫隆	首席	深江 泰彦・森 真哉

※記録: 首席

4 内容:

教頭の司会により学校運営協議会開催

- (1) 校長挨拶
- (2) 出席者の紹介及び資料説明
- (3) 会長・副会長選出 — 会長: 桑畑委員 副会長: 萬川委員

*本日、会長が欠席のため、萬川副会長を議長として協議事項に移る

5 協議事項:

1. 学校運営協議会実施要項について (事務局より)
 - ・学校運営協議会実施要項について説明 — 了承
 - ※School→全職員→校長→2018年7月 に入れておきます
2. 平成30年度学校経営計画について (校長より)
 - ・本年度運営に関して
 - ・中期目標は3年で実現させる目標である。
- ① 「授業で勝負」の理念で、「21世紀型学力」の育成に挑戦
 - 今年度も引き続き取り組む
 - 「わかる授業」から「わかる喜びが散りばめられた授業」に変更
 - 高校3年間を振り返ったときに、「授業」が思い出である、授業での気づきや学びが忘れたいものになっているのが理想である
 - 数値目標については、達成がきわめて困難と判断した点は数値目標を変更
- ② 「志」の育成と生徒全員の進路保証実現
 - (4)に教職員が働き方改革に努め、教員自らが生き生きとはたらく姿勢を生徒が感じ、「志」のある進路指導とともに活力溢れる人材育成を行う、を追加
- ③ 総合的な「人間力」の育成 — 昨年度からの大きな変更点無し
- ④ 本校の安全安心基盤、広報体制充実 — 昨年度からの大きな変更点無し

《意見交換》

(委員) 池高型アクティブラーニングの特徴ほどのような点か。

(学校) 教科特性や單元により、知的習得を重視するか、汎用的能力育成を重視するか、を使い分けている。例えば、保健や情報では汎用的能力育成を重視し、ディベートを積極的に取り入れている。

(委員) 土曜講習については、教員の労力が働き方改革に大きく反するのではないか。

(学校) 私学では土曜日授業を実施している学校が多い。また保護者からの要望もある。今後、本当に意味のある講習なのか、については検討する。

(委員) 思い出になるような授業は、通常の授業ではむずかしいのではないか。土曜日などに特別な授業を実施してみてもよいのではないか。

* 「思い出になる授業」の捉え方が委員全体で一致できていなかった可能性あり

(委員) ICT 機器の活用について、目標の70%まで伸ばすための方策は考えているのか。

(学校) iPad40 台を昨年より活用している。情報処理委員会が、先生の要望に即した使い方を提案している。デジタル教科書の導入が進んでいる。

授業を先生同士が見学し合う文化が池高では根付いているので、ICT 機器を活用した授業の公開を実施している。ただし、教員全体での利用は、進みにくい。

(委員) iPad は 40 台を教室で同時に使用しているのか。

(学校) 1 教室では同時に 20 台を使用している。

(委員) 黒板を使う授業にも意味があるのではないか。板書を効率よくノートに写すことは、効果的な学習である。ICT 機器を活用することは重要だが、使うことありき、では良くないのではないか。

(委員) 池田市の小中学校には、人型ロボット Pepper (ペッパー) が数台ずつ配置されている。大変面白い教材である。ただし、中学では人とロボットのつながりを通じて、人と人とのつながりの重要性を再確認している。

(委員) 言語活動充実・論理的思考力・課題解決力育成について、具体的にはどのような取り組みがなされているのか。

(学校) スピーチコンテスト、2 年保健・1 年情報でディベート、1 年保健で TBL を活用した授業等を実施している。総合学習の時間ともリンクして取り組んでいる。

(委員) 専門学校(建築関係)で講義をしているが、授業の初めに黒板に本時に何を学ぶかを書く。授業中には生徒がアウトプットする場面をたくさん作る、グループで学び合う、最後に確認テストをするなど、工夫した授業を実践している。さらに予習してきた生徒がよく理解できるような講義を心がけている。

(委員) 進路指導について、受験モードになるのが遅いのではないか。

(学校) 進路指導は3年間の計画を立てきめ細かく指導している。3年生に対しては学校で全員受験の模試を年間5回実施(1回は体育祭の翌日)している。折に触れ生徒に面談するなど生徒の意欲が高まるような工夫はしている。学校の授業では、わかったふりをして座っている生徒も少なくない。学校での実りを多くするような工夫を今後は考えていきたい。

(委員) 学校の取り組みは、十分理解しているが、保護者に正確に伝わっていないのではないか。

(学校) 学校での取り組みを、保護者により早く正確に伝わるような方策を考えたい。

6 その他：

・使用教科書の選定について

— 次回に選定本を閲覧/選定ポイントを簡潔に説明することが要望された

・次回開催日 — 2学期中旬頃の金曜日を基準に決定